

神道夢想流 日本杖道会会報

第32号
平成23年7月
編集・発行
日本杖道会

このたびの東日本大震災により被害を受けた皆様に謹んでお見舞い申し上げます。
被災地の一日も早い復興を心よりお祈りいたします。

被災時刻 平成二十三年三月十一日 十四時四十六分

被災者数 (五月十四日現在、警察庁まとめ)

全国合計 死亡 一五〇三七人

行方不明 九四八七人

避難 一一六五九一人

日本杖道会 会長 神之田 常盛

「歴史ある金王八幡宮」

地元に住みながらも何の気なしに住んでいた渋谷であるが、近所の金王八幡宮にある渋谷城があったことが由来だと小学校の時、社会科の授業で聞いたことがあった。

由緒が平安時代の川崎基家と源義家にあるとは知らなかった。渋谷氏のことは知っていたものの基家の息子である重家が天皇よりもらったことも知らないほどである。

金王の元になった金王丸が源頼朝に義経討伐の名を受け戦死したことを受け金王八幡宮と呼ばれるようになったとのことである。また、江戸時代に春日局と青山忠俊(港区青山の由来)が社殿を建てたそうである。こうして見ると身近なことながら歴史があり、その社殿内の藏脩館道場で稽古できることは何かの縁なのかもしれないと感じた。



第一〇七回

全日本剣道演武大会

日本杖道会事務局長

全国の剣道人が一年間の修練の成果を演武披露すると共に、参加者同士の友好親善を図る大会である。本大会は明治二十八年以来、武徳祭大演武会として行なわれた大会を、全日本剣道連盟が継承し、開催している。

今年も五月二日から五日にかけて、京都武徳センターに於いて全日本剣道演武大会（通称京都大会）が盛會に開催された。今年で一〇七回を数える歴史ある大会であった。また本大会の参加資格は剣道、居合道、杖道、刀術の各練士以上という格式ある



矢野多衛子(教士八段)×小塚禮子(教士八段)、正面は武安義光大会会長



神之田常盛(範士八段)×大里耕平(教士八段)

大会でもあり、日本杖道会からも神之田常盛会長をはじめとして十数名が参加した。

五月二日は各種の形から始まり、薙刀、杖道、居合道の公開演武が行われ、居合道範士の部が終了したのは午後六時であった。

杖道の演武の前に矢野多衛子、小塚禮子両八段による模範演武、居合道の演武の前には小倉昇範士による模範演武が公開された。

五月三日は居合道、杖道八段審査と範士教士称号審査が行われた。

杖道八段審査では二名、範士称号審査では一名また、居合道八段審査では七名、範士称号審査では二名の合格者が発表された。正式発表は会報剣窓により行われる。

例年、この機会を利用して日本杖道会主催の浪合神社奉納武道大会の日程の打ち合わせを行っておりませんが、今年もその大会の予定、実施方法の打ち合わせと、今大会、審査の反省会を行い、五月四日に京都を後にした。

当会よりの出場演武者（杖道関係）は、以下のとおり（敬称略）。

◇各種形の部

一心流鎖鎌術

(打)大里 耕平 (仕)神之田常盛

一角流十手術

(打)山口 満 (仕)阿部 修

神道流剣術

(打)西村 輝夫 (仕)丸山 文章

(打)北島東洋雄 (仕)塩澤 俊樹

◇杖道の部

神道夢想流杖道

(打)神之田常盛 (仕)大里 耕平

(打)阿部 修 (仕)山口 満

(打)松田 茂春 (仕)森本 訓史

(打)西村 輝夫 (仕)丸山 文章

(打)北島東洋雄 (仕)塩澤 俊樹

●香取神道流 本部道場を訪問

向春の頃、恒例の合宿中に香取神宮に参拝奉納演武後に無形文化に指定されている香取神道流二十代宗家飯篠快貞（いいざさやすさだ）氏の邸宅兼本部道場を神之田常盛会長筆頭に訪問する機会を得た。

香取神道流は飯篠長威斎（いいざさちよういさ）を流祖とする武道の祖といっても過言ではない。門派には、上泉伊勢守、塚原卜伝、桜井大隅守そして神道夢想流杖道の祖、夢想権之助もまたこの系統を元にした剣術を収めていると云われている。

本部道場内は木造の家屋に板張りの床であり、壁には薙刀、大小様々な木刀、棒術用の棒などがあり、香取神道流が扱う各種武術の片鱗感じることができた。また飯篠快貞氏本人より直に話を伺うことができた。最後に本人と共に写真を撮ることもでき杖道会員面々は良き経験を得たことだと思った。



鎖鎌・十手特別稽古会

梅雨の時期、六月十四日（火）藏脩館本部道場にて神之田常盛師範指導の元、鎖鎌十手の稽古会が参加者多数の中、盛会に行なわれた。

前半は一心流鎖鎌術の表技を中心とした稽古を行った。特に鎖鎌にて基本となる巻付を繰り返して練習した。免許者が模範を行うと太刀に綺麗に巻付くが研修者の中にはなかなかうまくいかない者もいた。ただ、師範の指導のもと繰り返し繰り返すうちに次第に巻きつくようになっていった。

また、分銅にて紋所を打つ業も大きく分銅を回すと分銅が言うことをきくという助言に従って稽古したところ、立ちどころに紋所に当たるようになった。表技も分解した細かい指導が鎖鎌太刀共に行われた。



休憩中も皆で師範を囲みながら師範自ら使用した剣道時代の竹刀や、素振り用の重い竹刀、また神之田師範の師匠である故、清水隆次師範愛用の木刀を披露された。思い出話を挟みながら各人竹刀や木刀を手にすることができた。

後半は一角流十手術の表技を見本を交えながら稽古した。基本となる太刀さばきを熱心に指導されていたことが印象深い。初学者も深く聞き入っていた。五本目程度までやるのが精一杯のところを十本目まで続けざまに教授いただいた。締めには杖のみならず、鎖鎌・十手も含めて神道夢想流だとの言葉をいただき、さらなる修行への激をとばされた。

三時間に及ぶ稽古であったが、あつという間過ぎ去り、実技・座学共に稽古でき充実した時間であった。もちろん次回の鎖鎌・十手稽古会も参加を続けていきたいと思った。

浪合神社奉納演武

並びに第十回各流武道会・研修会

一、各流武道研修会

平成23年7月30日 長野県飯田市武道館

一、浪合神社奉納演武

平成23年7月31日 念流山摩利支天の祠

一、第10回各流武道大会並びに

鎖鎌術優秀者選考会
浪合小中学校体育館
平成23年7月31日

